

参考図書

- 池上義信(監)・石沢 進(編) 新潟県植物分布図集 植物同好じんねんじよ会
第1集(1980), 第9集(1988), 第16集(1995)
- 石沢 進(2007) 分布上顕著な新津の植物(6) 新津植物資料室年報2006
- 加藤信英(1972) 山形県庄内地方北部の興味ある植物について(第2報) ふろら山形 No. 28:19-23.
- 北見秀夫(1963) 佐渡の植物 佐渡博物館研究報告第5集
- 牧野恭次(2000) 新潟県の羊歯植物誌
- 牧野富太郎(1989) 改訂増補 牧野新日本植物図鑑 北隆館
- 野田光蔵(1969) 越後の植物誌
- 奥山春季(1974) 採集検索 日本植物ハンドブック 八坂書房
- 奥山春季(1984) 原色日本野外植物図譜 誠文堂新光社
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001) 日本帰化植物写真図鑑 全国農村教育協会

魚沼市小出地域の植物(3)

富永 弘

1 小出のラショウモンカズラと周辺における「ラショウモンカズラ型分布」の植物

ラショウモンカズラは、新潟県内において特異な分布型を持ち、ユキツバキやコシノチャルメルソウ等の分布との関連がよく知られている(松田1981, 石沢1996)。石沢(1985)によれば、「ユキツバキは新潟県内に広く分布しているが、ラショウモンカズラは、ユキツバキの分布限界近くのみ生育する。換言すれば、ラショウモンカズラは、ユキツバキの分布域を取り囲むようにして生育している」とされている。魚沼地域におけるラショウモンカズラの既知の分布地は、奥只見、湯沢、塩沢などユキツバキの分布限界に近い場所である。

このようなことから、「ほぼ全域に渡ってユキツバキが高密度に分布している小出には、ラショウモンカズラは生育していないだろう」と考えていたが、2007年に魚沼市の小出地域(魚野川の左岸:西側)で、ラショウモンカズラの生育を確認したので報告する。生育地は一箇所だが、小さな群落を形成し、開花も多く花後の匍枝の伸長等も旺盛で、生育状況は良好である。花期には、一角が紫の絨毯状になって見事な景観を呈する。生育地はスギ林の縁であり、高木はスギのほかにはケンボナシの大木が1本あるのみである。スギ林のために日当たりは少なめで、湿り気が多い印象の場所である。

なお、ここに報告する小出の生育地に隣接した旧大和町西山(魚野川左岸の魚沼丘陵)にも、ラショウモンカズラが生育するという話も聞いているが、現状では未確認である。

生育地に見られる植物は以下のようなものである。

高木:スギ、ケンボナシ

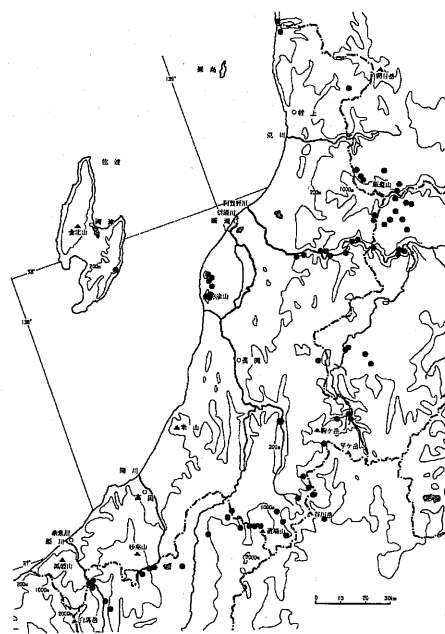


図1 ラショウモンカズラの新潟県における分布(大木1980)



写真1-1 ラショウモンカズラ(チマキザサと混生) [’08 5/18 小出]



写真1-2 ラショウモンカズラ(群生して満開) [’08 5/18 小出]

中木：ケアブラチャン、ヤマグワ、フジ

低木：ハイイヌガヤ、ミツバアケビ、ユキツバキ、コマユミ、チマキザサ

草本：ジュウモンジシダ、リョウメンシダ、オクマワラビ、ワラビ、ミゾシダ、ドクダミ、アカソ、ミズヒキ、ハナタデ、エゾノギシギシ、コシノチャルメルソウ、ヒカゲイノコズチ、イカリソウ、コシジシモツケソウ、コンロンソウ、エビラフジ、コウモリカズラ、ウマノミツバ、ノダケ、オオタチツボスミレ、アマチャヅル、ナギナタコウジュ、キバナアキギリ、アメリカセンダングサ、ユウガギク、チカラシバ、ショウジョウスゲ、オオウバユリ

<ラショウモンカズラ生育地の注目すべき植物>

新潟県内における分布状況に照らして、小出のラショウモンカズラ生育地で見られる植物のうち注目されるのは、ユキツバキとコシノチャルメルソウ、コンロンソウである。生育地周辺には、ユキツバキが広く高密度に分布し、石沢が述べるような両種の分布域の接点に位置する状況にはない。言わば、ユキツバキが高密度で分布するエリアの中に、孤島のようにラショウモンカズラが生育し、既知の生育地の報告と考え併せれば、極めて興味深いことである。

コンロンソウは新潟県内の分布に偏りがあり、主に県の北部を中心に育成している。新潟県中北部においては、ラショウモン

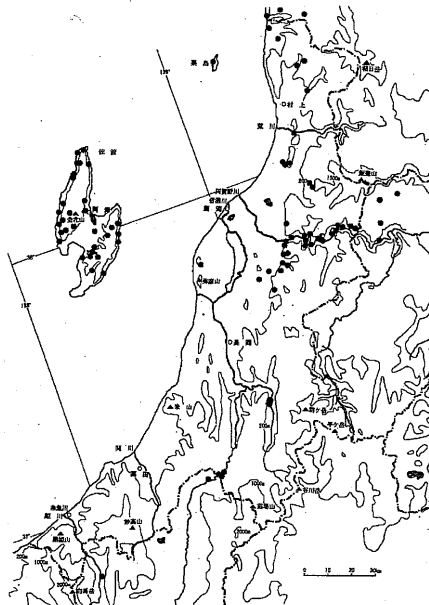


図2 コンロンソウの新潟県における分布 (渡辺 1983)



写真2 コンロンソウ[08 5/18 小出]



写真3 コシノチャルメルソウ (コンロンソウと共存)[2010 1/30 小出]

カズラと類似の分布パターンを示すが、県の南部においては、県境部のごく限られた地点のみに生育している (渡辺1983)。従って、小出地域におけるコンロンソウの生育は、ラショウモンカズラや既報のヤマアイ、マネキグサ (富永2008) 等と同様に、隔離分布と言えるような状況にある。小出のラショウモンカズラの産地は一か所のみであるが、コンロンソウは周辺にかなり広範に生育している。と言っても、魚野川左岸(西側の魚沼丘陵)の一角に限ってのことである。

渡辺 (1983) は、「コンロンソウとヒロハコンロンソウの分布域を重ねると、ほぼラショウモンカズラの分布に一致し、多雪地に限られるコシノチャルメルソウの分布域をとり囲むような形に分布している」と述べている。しかし、小出のラショウモンカズラ生育地周辺においては、コシノチャルメルソウの分布密度が高く、ラショウモンカズラ群落に隣接しても生育している。初冬の観察では、他の少積雪地域におけると同様に、コンロンソウとラショウモンカズラの少なくとも一部は、緑葉の状態越冬するように思われた。

小出地域の魚野川左岸には、ラショウモンカズラ、コンロンソウ、コシノチャルメルソウ以外にも、フモトシダ、ヤマネコノメソウ、ヤマブキ、ヤマハタザオ、ミツデカエデ、ヤマアイ、マネキグサ、キツネノマゴ、ナガバジャノヒゲなど、新潟県内の分布を考えると、注目される多くの植物が生育している。これらについては、近いうちにまとめて報告すべく準備を進めている。

<小出周辺における「ラショウモンカズラ型分布」の植物>

松田(1981) は、「ラショウモンカズラ型分布の植物は、日本海型気候の程度指数の低い地域に分布する」と述べているが、論拠とされた指数については、体感とかけ離れている印象を抱いている。筆者ら魚沼に住む者の実感では、「どんなに積雪が多くても、小千谷まで行けば少なくなる。まして米山が間近に見える場所まで行けば、ほとんど雪は問題にならない」という意識が一般的である。採用した観測点が限られていることや、指数が積雪ではなく降水量を用いていることによるものと思うが、「六日町や広神よりも、小千谷・長岡・小国周辺の方がより日本海的な気候

下にある」とは頷きにくい。

筆者は、小出地域と大和地域において、「ラショウモンカズラ型分布」の植物とされるセントウソウの生育を確認している。既知の情報と総合すれば、小出、大和、六日町と、名だたる豪雪地にセントウソウの産地があることとなる。上記のラショウモンカズラ、コンロンソウのほかに、「ラショウモンカズラ型分布に酷似し、特にオドリコソウとほぼ分布域が一致する」(小林1983)とされるシャクについても、小出・湯之谷・大和地域で何箇所か群落を確認している。その一方で、周辺においてオドリコソウの生育は未確認である。

以上、小出のラショウモンカズラの生育状況について、新潟県内における他の「ラショウモンカズラ型分布」の植物等にも触れながら報告した。今後も、県内でも最深の積雪が見られる魚沼地域でのフロラに関する知見を蓄積するとともに、それぞれの種の生活状況の観察を深め、植物の分布要因の解析を進めたいものとする。

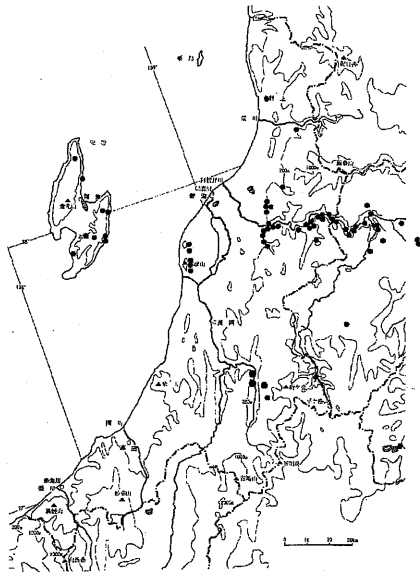


図3 セントウソウの新潟県における分布 (松田 1980)

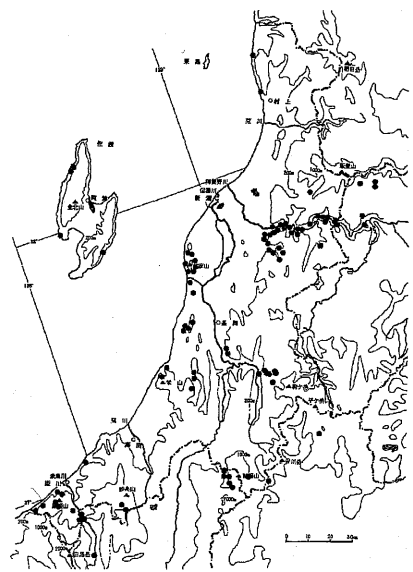


図4 シャクの新潟県における分布 (小林 1983)



写真4 セントウソウ[’09 4/4 大和]



写真5 シャク[’09 5/6 大和]

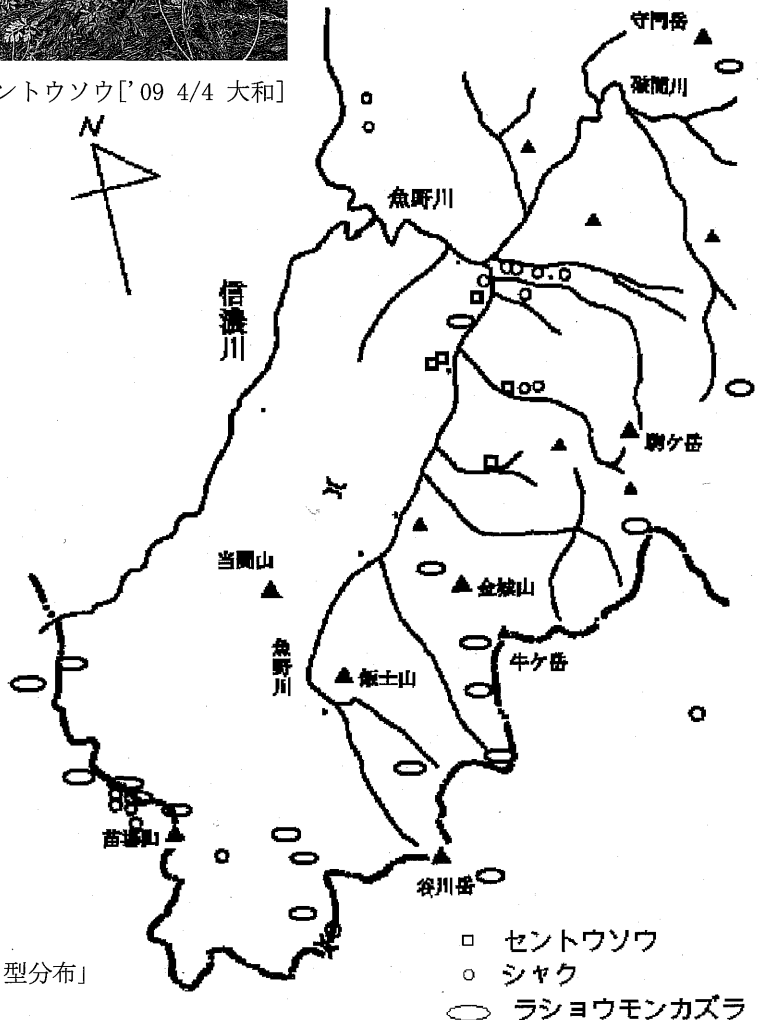


図5 魚沼地域における「ラショウモンカズラ型分布」の植物

2 魚沼地域におけるコシノチャルメルソウの分布限界

コシノチャルメルソウは、典型的な日本海要素の植物であり、新潟県と富山県の一部にのみ生育する分布域の狭い種類である(大木1980, 石沢1996)。堀田(1974)は、富山県から新潟県にかけては、「コシノチャルメルソウによって代表される、地方的な分布域の狭い固有種がある程度集中する地域」と述べている。魚沼市では、「水辺に行けば、ほぼ確実にコシノチャルメルソウに出会える」と言えるくらいに広く分布し、生育密度も高い。しかし、魚沼市から南魚沼市にかけて(小出~六日町の間で)分布限界になるとされている。「分布限界はどこか?」という数年来の疑問を解消するため、2009年の春、魚野川の左右岸を調査した。その結果、魚野川の東西とも、旧大和町で分布が途切れていることを確認した。

調査は、魚野川に沿って、コシノチャルメルソウの生育に適していると思われる場所(傾斜のゆるやかな小さな流水沿いの林縁)で、その生育を確認するという方法で行った。魚野川の東西で、それぞれ北から南に向かってとその反対方向での往復で調査した。結果は、魚野川の西(左岸)では旧大和町の六日町境近くにまで分布しているのに対し、東(右岸)では、旧大和町の水無川以北に限られることがわかった。

魚野川流域においても、新潟県内の他所と同じように、コシノチャルメルソウの分布域を囲

むようにして同属のコチャルメルソウが生育している。そして、両種の分布が接する付近には、雑種とされているヒロハチャルメルソウが見られることがある。魚沼市干溝においては、沢の下流方向から、コシノチャルメルソウ、ヒロハチャルメルソウ、コチャルメルソウの各群落が、それぞれこの順に相接して生育している場所もある。これら3種の分布や形態、生態については、大木(1980)の報告に詳しい。

松田(1981)は、「ラショウモンカズラ型分布」の植物とコシノチャルメルソウの分布について「前者は後者の分布域を囲むようにして生育し、両者とも新潟県で冬季降水量が最も多い地域には生育していない」と述べている。しかし、魚沼市から南魚沼市の大和地域にかけては、県内でも冬季降水量が最も多い地域と言えるだろうが、コシノチャルメルソウは、魚沼市のほぼ全域の山足や山間に高密度で分布しているし、水無川以南の魚野川右岸を除く大和地域においても、広く生育している。

松田はまた、「コシノチャルメルソウとラショウモンカズラ型分布」の植物では、その分布を限定する要因が異なる」と推測しているが、両者の分布要因とその異同を明らかにするための調査を継続したい。

3 オオフジシダの県内最高生育地の更新

暖地性のオオフジシダは県内稀産種であり、小出地域における生育については昨年報告したし(富永2009)、発見者による興味深い報告もある(登坂1997)。2009年に、さらに高所における新たな生育地を確認した。それは、前報と同じように小出地域の魚野川東部の山地で、小出における3箇所目の産地である。生育地の標高は510mと県内最高であり、既報の生育地と同じ水系のさらに深部に位置している。生育地は北向きの斜面で、湿度は低くない印象の場所であるが、沢床からはかなり距離がある。その沢も、春先と降雨直後以外には流水が見られないと思われる。生育地は、ウラジロヨウラク、ユキグニミツバツツジ、オサシダ等が生える10mほどの岩の基部である。周辺に高木層は見られず、マルバマンサク、リョウブ、ミズナラ、ウリハダカエデ等が生育し、オオフジシダは、ミヤマイタチシダ、ヤマソテツ、イワカガミ等とともに生育している。

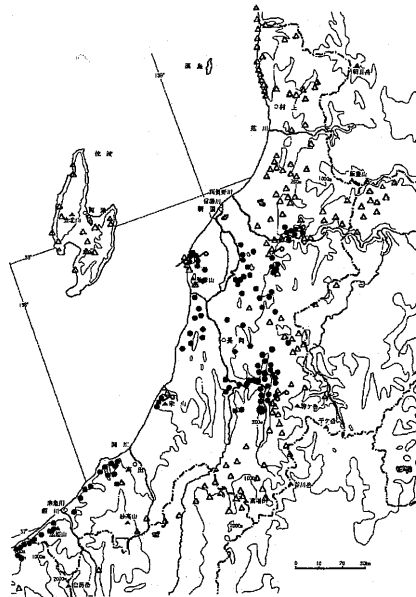


写真 6 分布限界近くのコシノチャルメルソウ
['09 4/4 大和]

図 6 チャルメルソウ属の新潟県における分布

(大木 1983 に魚沼付近追加)

●コシノチャルメルソウ、△コチャルメルソウ、○ヒロハチャルメルソウ



写真 7 ヒロハチャルメルソウ
['09 5/4 小出]

2008年には上記水系の465m地点において、牧野恭次氏のご協力により北方系のシロウマイタチシダを確認したが、オオブジシダの新産地はこれよりも標高が高く、同水系のさらに奥に位置している。オオキジノオ、コバノイシカグマ、イワヒメワラビ、ウスヒメワラビなどの暖地系シダ植物の生育する同水系のシダ植物相の解明は、大きな課題と認識している。

4 小出地域でのアイナエの生育

魚沼市小出地域の魚野川左岸で、県内稀産のアイナエの生育を確認した。生育地は川辺に近い人手の加わった場所であり、移入の可能性も十分に考えられる。発見は2007年で、写真を含めて報告済みである(富永2009)。行政当局や地元の理解のもとに、何とか毎年の開花結実が観察されているが、現地環境は極めて脆弱であり、絶滅の懸念も大きい。



写真 8 アイナエ['09 8/29 小出]

引用文献

- 堀田 満(1974), 植物の分布と分化, p273, 三省堂
- 石沢 進(1985), 新潟県及びその周辺地域におけるユキツバキの分布圏をとりまく植物群—1. ラシヨウモンカズラ分布型—, 長岡市立科学博物館研究報告, 20, p1~28
- 石沢 進(1996), ユキツバキを指標とした植物分布, 学会出版センター
- 南魚沼郡教育委員会連絡協議会 (1985), 南魚の植物, 南魚沼郡教育委員会連絡協議会
- 松田義徳(1981), 新潟県における「ラシヨウモンカズラ型」分布の植物, 新潟県植物分布図集 2, p411-422,
植物同好じねんじょ会
- 小林浩二(1983), 新潟県におけるシャク、セリモドキ、ノダケの分布, 新潟県植物分布図集, 4, p430~431,
植物同好じねんじょ会
- 大木敏行(1981), 新潟県植物分布図集, 1, p55, 植物同好じねんじょ会
- 大木敏行(1981), 新潟県におけるチャルメルソウ属の分布, 新潟県植物分布図集, 3, p388~393, 植物同好じねんじょ会
- 富永 弘(2008), 魚沼市小出地域の植物(1), 新津植物資料室年報2007, p24-27, 石沢 進編
- 富永 弘(2009), 魚沼市小出地域の植物(2), 新津植物資料室年報2008, p18-21, 石沢 進編
- 富永 弘(2009), 魚沼市における新潟県稀産アイナエの生育とその保全, 新潟県植物保護, 46, p3, 新潟県植物保護協会
- 登坂裕一(1997), 北魚沼郡小出町のオオブジシダ, 新潟県植物分布図集, 18, p93, 植物同好じねんじょ会
- 渡辺 明(1983), 新潟県におけるコンロンソウ・ヒロハコンロンソウの分布と生態, 新潟県植物分布図集, 4, p424~429, 植物同好じねんじょ会

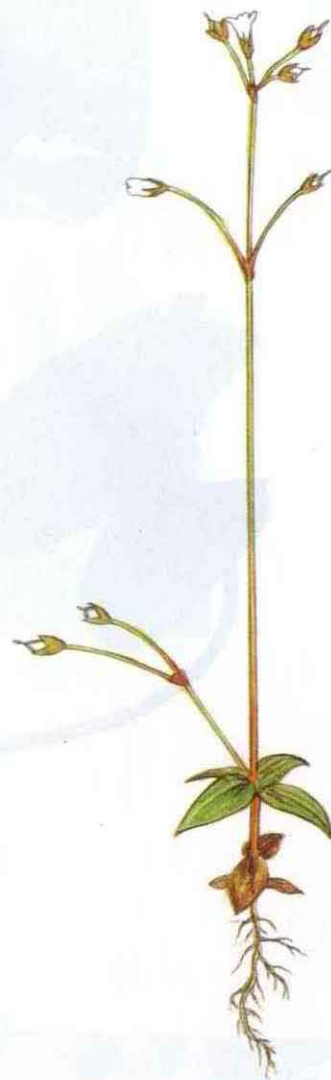


図 7 アイナエ(桐生 誠氏)
[小出産 2009 8/29]